

【様式第 4 号】

令和 8 年度 保土ケ谷区障害者自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク部会・こども部会 コラボ事例検討 議事録	
日 時	令和 8 年 5 月 18 日（月）10：00～12：00
開催場所	保土ケ谷区役所 地下会議室
出席者	<参加者>偕恵いわまワークス、市立左近山特別支援学校、西部地域療育センター、天王町あけぼの園、パレットハウス和田町、夢 21 上星川、療育スタジオ・ピコ上星川教室、西区基幹相談支援センター、ゆめっこくらぶ、ガッツ・ビーと西、はるの家、市立ろう特別支援学校、ねくさす（以上 16 名） <事務局>夢 21 福祉会、恵和青年寮、十愛病院、たちほどがや、相談支援事業所わおん、ほどがや希望の家、地域生活支援センター咲顔の詩、児童家庭支援センターゆめのね、en 和田町、市立上菅田特別支援学校、市立保土ケ谷支援学校、今井地域ケアプラザ、保土ケ谷区生活支援センター、保土ケ谷区基幹相談支援センター、区高齢・障害支援課、区こども家庭支援課（以上 22 名）
欠席者	すみれ園（以上 1 名）
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議 題	◎令和 8 年度 まち暮ら部会・こども部会コラボ事例検討 『児童期から成人期への移行にかかるケース』 事例提供：保土ケ谷支援学校 杉本先生・保土ケ谷区基幹相談 田村さん 会の目的：ライフステージに関わらず、地域で支えることを考える機会とする 1. 10:00～ 開会あいさつ、事例検討の趣旨説明 【司会：遠藤さん（基幹）】 【まち暮ら部会／佐野部会長】 （基幹遠藤さん） 資料の確認。今回は児童期から成人期の移行にかかる事例を、保土ケ谷支援学校の杉本先生、基幹の田村さんが提供。ライフステージに関わらず、地域で支えて行くことを考えていきたい。 （佐野部会長） 今回はまち暮ら部会とこども部会合同の事例検討会。普段成人の入所施設で働いていると、児童、加齢児の相談が一定数ある。移行期の問題はずっと続いている。みんなで検討していきたい。 2. 10:05～ 事例紹介①（小学校時代まで）【司会：遠藤さん（基幹）】 ～グループワーク①～その後の経過【報告：田村さん（基幹）】 事例紹介 基幹田村さんより、小学校卒業までの様子を説明。 小学校卒業まで／高校卒業に向けて の 2 段階で、その時期にどんな支援ができるか検討したい。

1 回目のグループワーク。

中学進学にあたってどんな支援が必要か、何ができるか話し合う。

3. 10:45～ 事例紹介②（高校入学～3年生にかけて）【司会：遠藤さん（基幹）】
～グループワーク②～その後の経過【報告：杉本先生（保土ヶ谷支援学校）】

事例紹介

保土ヶ谷支援学校杉本先生より、高校入学後の様子について説明。

2 回目のグループワーク。

卒業後の進路、支援について話し合う。

4. 11:25～ 各グループ 共有（4グループ程度）【司会：遠藤さん（基幹）】

（3 グループ 基幹月見さん）

小学校まで：母との依存的な関係、愛着障害の問題がある。兄の経験を奪い、負の強化につながっている。

高校卒業後：生活介護や地活ではなく、就労支援継続B型につながった経緯を知りたいという声が多かった。母子分離は必要。両親がいると支援が入らない。家庭に課題がある方を支援する制度があるとよい。

（5 グループ 上菅田特別支援学校北先生）

小学校まで：衝動性の背景は何か。学校を行き渋る状態から通えるようになったのはなぜか。父の障害理解が進まないのはなぜか。

本人の強みを活かす。居場所づくりができるとよい。本人の“取説”のようなものを共有し、次に繋げるとよい。関係者と共有できるといい。

高校卒業後：母へのフォロー、母と関係機関の連携が必要。母と本人は共依存。本人の強みが見えなくなっている。てんかんや手帳の等級の変化があり、本人も自分の状態が変わるイライラがあったのではないかな。計画相談、訪問看護など相談できることが大事。

（2 グループ 十愛病院大泉さん）

小学校まで：本当の課題は何か。本人の暴言や衝動的な行為の背景は何か。家庭環境の影響や、本人が持っている認知の力など、全体的に捉える必要がある。

支援者は充実しているが、父と母の本人への理解に差があり、保護者への関わり方が難しい。積み重ねがあれば状況が変わったかもしれない。学齢期は親へのサポートの仕方、支援者の関わり方が大事。

高校卒業後：本人の状態像は変わっているのか。そんなに変わっていないかもしれない。成長していく中で、自分で“できた”経験が少ない。本人から世界はどう見えているのか。本人はどうしたいのか。どうしたら幸せなのか。意思決定支援。

進路を決める上では、もっともっとその視点がいる。保護者の意向以上に、本人の意向が大事。

母子分離をどのようにしていくのか。グループホーム等。本人が安定して過ごすにはどの進路がいいのか。

(1 グループ 天王町あけぼの園林さん)

小学校まで：家族への支援。父の障害理解が進まない。暴力には虐待ケースとしての介入が必要。キーパーソンがいない。本人の自己肯定感が家庭で育たず、警戒心が高まっている。ペアレントトレーニングなど、家庭に入っていける支援が必要。本人が過ごしやすいところはどこか。個別級が本当に過ごしやすい場所なのか。流れで進学先を決めていいのか。

高校卒業後：就労継続支援B型に通えているのはすごいこと。自己肯定感を持てるように、自己理解が進むように、支援できるとよい。自信のなさ、不安感が落ち着くと情緒面の安定が図れるのではないかな。母に対しての支援も必要だが、ショートステイ、短期入所等本人が新しい場所で過ごし、成功体験を積んでいけるとよい。成人期の新たな支援チームの形成が必要。

5. 11:40～ これまでに関わった支援者より感想、講評

・母には“こんなはずじゃなかった”と思う時期があった。感情の浮き沈みを、支援者として受け止めるしかできなかった。この先どう暮らしていくのか、想像もできない。答えが出ない。グループホームや施設入所には大きな壁がある。どれだけ働きかけても難しいかもしれない。支援者が伝えたことが届いていると信じて関わり続けるしかない。母子のこんなはずじゃなかったにどう向き合うか。地域で暮らすということにどう向き合うか。自分の立場からできることを継続したい。

・母が障害を受けとめられない。母への支援が必要で、母と面談をしていた。カンファレンスを何度もして、支援者がたくさんいた。それでもなかなかうまくいかなかった。面談内容、情報共有できていたか。

・色々な支援者に支えられて、地域で暮らした方。もっとできることがあったのではという気持ちはあるが、地域で暮らしているのは支援の賜物。ライフステージで支援を途切れさせないように繋いでいくことが大事。

6. 11:50～ インフォメーション

(保土ケ谷区基幹 田村さんより)

まち暮ら部会とこども部会の年間予定を配っているの確認してほしい。

自立支援協議会のホームページ、議事録も各部会のページで確認できる。

年間予定も掲載している。

わからないことあればこども部会は基幹の月見さん、まち暮ら部会は恵和青年寮佐野さんが問い合わせ窓口。

(西区基幹 渡辺さんより)

5月26日、ガッツ・ビーと西にて。横浜刑務所の精神保健福祉士の方から受刑者の方の人権についてお話いただく。申し込みは不要。

7. 11:55～ 終会あいさつ 【こども部会／山下部会長】

まち暮ら部会とこども部会初めてのコラボ。お互いに顔の見える関係を作ることができた。日頃の支援に活かしていきたい。

○次回

・まちで暮らすネットワーク（地域生活支援部会）

令和8年 6月 11日（木） 13:00 ～15:00 GH 見学交流会

場所：夢21上星川

・こども部会

令和8年 6月 22日（月） 10:00 ～12:00 交流会

場所：区役所3F 301/302 会議室

○グループワーク資料

